

小池 宏明 牧師

*恐れるヤコブ

ヤコブは故郷カナンに近づいてくると兄エサウに恐れを抱いた。ヤコブには解決していない問題があった。20年経っても解決しない問題が重くのし掛かっていた。兄エサウの長子権と祝福を奪って、兄を激しく怒らせてしまったことだ。日頃は忘れていたこともあったかもしれない。しかし、事件の現場、故郷（カナン）に近づくと、否応なしに記憶が甦って、心が重くなってくるのだ。ヤコブは、さっそく計算高く行動する。自分の群れを二つの宿営に分けておけば、一つが滅ぼされても、その間にもう一つの群れは逃げ延びることが出来ると考えたのだ。

それでも、ヤコブの不安や恐れは、解消されない。いよいよ祈りの格闘が始まる。

*ヤコブの格闘と主との深い交わり

この格闘は、何を意味するだろうか。ヤコブは、誰と格闘したのだろうか。ヤコブと格闘した「ある人」とは、イエス・キリストのことを指しているという解釈もある。主なる神様が、人間に負けるはずがない。これは、主がヤコブの頑張りを、そして、何が何でも祝福して欲しいという切なる願いを認めてくださり、受け止めて下さったことを示している。しかしヤコブ自身の力で越えられることは何もないのだ。そのことを明らかにするために、主なる神様は、ヤコブのももの関節を打って、歩けないようにされた。そういう意味で、実際にはヤコブが勝ったわけではない。神がヤコブに負けて下さったのだ。この格闘を通して、ヤコブは、主がいつも共にいて下さるから、自分の力ではなくて、主の力で闘って、乗り越えて行けるということを学んだ。ヤコブはこの格闘を通して、大きく変化する。

*私たちの祈りの生活はどうだろうか

不安や恐れで眠れない夜を過ごしたことがあるだろうか。そのような時に、主なる神様に自分の本心をぶつけて、自分をさらけ出してみよう。それが、祈りの格闘である。自らが抱えている弱さ、恐れ、不安など、正直に主の御前で、主に訴えてみよう。静まって、主の語りかけに耳を澄ませてみよう。